



王合
國衆
內國
稅年
報編
纂

第二編



114
A 1842
28



合衆内國稅年報編纂書

二編

大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈

酒精稅之沿革

左ノ數項ハ國産稅ヲ賦課スルノ方法ヲ示ス者ニシテ即チ「ベル
氏ノ國産稅官吏必携ヨリ抄録スル所ニ係ル

酒精稅ハ一瓦倫^{餘ニ升零ハ}ニ付十司令ヲ課ス而シテ其稅額
ヲ定ムルノ法ハ「サイクス氏^{名ノ}秤水器ニ據テ揮發ノ強弱ヲ
測リ取テ斗量ノ多寡ニ関セス之ヲ名ケテ驗精ト云フ蓋シ驗
精ノ酒精ハ法律ニ據テ華氏驗溫器五十一度ノ溫度ニシテ其
重量蒸餾水ノ十三分ノ十二ニ比例スヘキ者ト定ム
酒精稅ヲ課スルニ於テ着眼セサル可ラサルノ要領ハ其製造
ノ次序ヲ審ニシ毫モ蒸餾者ヲシテ容製スルノ患ナカラシム
ルニ在リ蓋シ之ヲ課スルノ法ニニアリ其一ハ蒸餾室ニ於テ

製造ノヲ蒸餾ノ為ニ醸造ニハ其重量五度ヲ以テ新酒ノ
百瓦倫ト定メ以テ一瓦倫ノ驗精酒精ト為シ其ニハロ、ワイ
シ初度ノ蒸餾タルノ時ニ於テハ再ヒ之ヲ蒸餾スルカ為ニ
減耗スルノ程度ヲ計テ驗精酒精ノ五分ヲ減シ其ニハ酒精中
ニ含有スル驗精ノ度及ヒロ、ワイシヨリ蒸餾セルフエントニ
從テ賦税ノ額ヲ定ムル等即チ是ナリ而シテ蒸餾者ハ此三法
ニ就キ酒精ノ量ノ最モ多キ者ニ從テ賦税セラル、フ定則ト
ス抑モ第一ノ法ハヲシヨリ生出スヘキ驗精酒精ノ量ノ概算
ニシテ通常酒精及ヒフエントニ比スレハ八分乃至十五分ヲ減
スル者トス而シテ其減量ノ度ハ始メ蒸餾ノ為ニ使用セル
原質ニ依テ差異アルヲ免レヌ蓋シ收税吏負ハ蒸餾ノ作用ヲ
檢シテ精液ノ計算ヲ確定センカ為ニ其室ニ臨テ蒸餾器具
ヲ検査シ以テ其容量ヲ驗明記録セサル可ラス其蒸餾者ニ在

テハ豫メ醸造ノ期日ヲ收税吏負ニ報告シ其新酒ヲ器具ニ盛
リ以テ發酵セシムルノ際ニ於テハ其斗量ト重量トヲ記セル
書票ヲ呈セサル可ラス而シテ蒸餾者ハ此時ヨリ漸次ニ新酒
ノ蒸餾ニ從事シ以テ廢消ニ供スルノ域ニ至ラシム
初度ノ蒸餾ヲ依テ得ル所ノ者ヲロ、ワイシト云フ其第二ノ
賦税ヲ為スハ即チ此作用ノ時ニアリ又再度ノ蒸餾ニ依テ得
ル所ノ純精ヲササル者ヲフエントト云ヒ其純精ナル者ヲ酒精
ト云フ而シテ第三ノ賦税ヲ為スハ即チ此作用ノ時ニ在ルナ
リ
抑モ蒸餾ノ作用ハ收税吏負ノ監視スルノ時ニ非サレハ之ヲ
為ス可ラサルヲ以テ蒸餾室及ヒ蒸餾器具ヲ儲蔵スル房室ハ
官鍵ヲ以テ之ヲ鎖シ豫シメ作用ノ期ヲ收税吏負ニ申報スル
ニ非サルヨリハ妄リニ開閉スルヲ得ス且徳義ニヨリ各蒸餾

者ヲシテ其製造中ニ於テ私ニ酒精ノ量ヲ減スルノ不正ナ
カラシメンシカ為メニ蒸餾スヘキ原品ノ量ト既ニ蒸餾シタル
酒精ノ驗精量トヲ記レタル誓書ヲ呈セシム而シテ酒精ノ蒸
餾既ニ畢レハ之ヲ蒸餾者ノ倉庫ニ送り以テ收税吏負ノ監護
ニ屬セシメ詠吏負ノ准許狀酒精稅ヲ證明スレテ附スルニ非カ
レハ之ヲ搬出スルヲ准サス
蒸餾者ハ酒精ノ製造既ニ畢ルモ直ニ納税スルヲ要セス故ニ
其酒精ヲ保管倉庫ニ儲蔵シテ賣却スルニ足ルヘキノ好機ヲ
俟テ以テ納税ノ期ヲ遷延スルヲ得ヘク又保管倉庫内ニ於テ
ハ各種ノ酒精ヲ混和調合シテ其滋味ヲ改良スルヲ得ヘシ又
預シメ酒精ノ倉庫内ニ在テ其量ヲ減セントテ慮リ寛裕ノ法
ヲ設ケテ其量ヲ減免セシムルカ故ニ之ヲ搬出スルニ當リ收
納スル所ノ税額ハ決シテ其現量ニ超過スルノ憂ナキナリ但

其酒精内國産ナルト外國産ナルトヲ問ハス一瓦倫以上ヲ運
搬スルキハ必ラス准許狀ヲ附セザル可ラス
精餾者再ニ精酒ヲ加フル者ハ恒ニ收税吏負ノ監視ヲ受ケ又商
賈及ヒ零賣者ノ貯蔵スル酒精等ハ巡視シテ其量ヲ測リ之ヲ
冊ニ上スルモ決シテ違拒スルヲ得ズ但此等ノ事ハ收税監督
若クハ其他ノ上官ヨリ命スルニ非サレハ收税吏負ニテ恣ニ
施行スルヲ得サルナリ又收税吏負ハ官准ヲ得サル蒸餾室ヲ
探檢シテ之ヲ官ニ沒收シ其他酒精ヲ隱匿スルノ疑アル包貨
ハ之ヲ截停檢査スルノ權ヲ有ス是則チ内國産ノ酒精ニ於テ
ハ國産稅ヲ納メス共輸入ノ者ニ於テハ海關稅ヲ納メスシテ
恣ニ販賣スルトアラシク預防センカ為メナリ
合衆王國ノ蒸餾酒精ニ関スル法律ヲシテ明カニ解得スルニ足
ラシメンニハ須ラク既社ニ溯テ其沿革ノ要領ヲ知テザル可ラ

ス
按ヌルニ千八百二十年頃ヨリ蘇愛ノ兩國ニ於テハ酒精ノ密餾
盛ニ行ハレ此國內ニ廢消スル所ノ過半ハ悉ク密餾者ニ出テサ
ル無ク而シテ當時酒精稅ノ率ハ實ニ過重ナリシモ當ニ之ヲ賦
課スル方法ノ完全ナラサルノミナラス尚ホ官准ノ蒸餾者カ製
スル所ノ酒精ヲシテ密餾者ノ製スル所ト其質ヲ異ニセシムル
ニ足ルヘキノ規則アラサリシナリ然ルニ其翌年ニ及テハ密餾
ノ行ハル、ヤ益々甚シク其害タル實ニ測ル可ラサルノ域ニ至
リシヲ以テ立法院ニ於テハ委員ヲ選舉シテ其密餾ノ因テ起ル
所ノ原由ヲ探究シ以テ改正ノ法案ヲ建議セシメタリキ
此建議ハ立法院ノ採用スル所トナリ即チ千八百二十三年ノ法
令ヲ以テ從來蘇格蘭ニ於テハ酒精ノ稅六司令ニ邊尼愛爾蘭ニ
於テハ五司令七邊尼ナルヲ兩國共ニ一瓦倫ニ付キ二司令四邊

尼四分三ニマテ減シ又同時ニ從前ノ苛察ナル稅法ヲ廢シテ簡
明ノ新法ヲ製シ以テ蒸餾者ヲ寬待シタルカ故ニ政府ノ歲入ハ
大ニ増加シテ終ニ脫稅ノ跡ヲ見サルニ至レリ
蘇愛ノ二國ニ於テ改稅ノ成績タルヤ既ニ斯ノ如ク其レ大ナリ
シカ故ニ遂ニ千八百二十五年ヲ以テ之ヲ英倫ニ及ホシ從來ノ
酒精稅一瓦倫ニ付キ十司令八邊尼四分一ナルヲ七司令ニマテ
減シタリ
此等ノ變革ニ因リ官准ヲ經テ蒸餾セル精酒ノ量ノ増加スルヤ
實ニ驚クヘキノ域ニ至リ現ニ千八百二十年ニ於テ內國廢消
酒精ハ九百六十萬瓦倫ナリシモ千八百二十六年ニ至テハ千八
百二十萬瓦倫ノ多キニ及ハリ
此時以來政府ニ於テ經歷スル所ノ事跡ハ一トシテ曩日千八百
年及千七百五十年ノ改稅ノ美舉タルヲ證セサル無ク大ニ政府ノ歲入

ヲ回護スルニ至リレヲ以テ漸次其稅率ヲシテ英
瓦倫ニ付キ工司令十邊尼蘇格蘭ニ於テハ一瓦倫ニ付キ三司令
八邊尼愛爾蘭ニ於テハ一瓦倫ニ付キ二司令八邊尼ニマテ增加
セシタルヲ得タリ而シテ此改稅ヲ除クノ外ハ千八百四十八年
ニ至ルマテ復他ノ緊要ナル變革アルヲ見ス
千八百四十八年前ニ在テハ麥芽ニ製シ或ハ製セサル穀物既ニ
納稅シタル砂糖馬鈴薯若クハマンブルウルゼルノ甜菜ノ外ハ
酒精ニ蒸餾スルヲ准サヌ又此數品ト雖モ麥芽ニ製シ或ハ製セ
サル穀物ヲ除クノ外ハ彼此混合シテ蒸餾ノ為メニ使用スルヲ
准サ、リシカ此等ノ規則ハ必竟穀物ニ非サルヨリハ寧ロ酒精
ヲ蒸餾ス可ラスト令スルノ理タリ況ンヤ海關ニ於テハ砂糖ノ
輸入稅ヲ徵收スルニ於テオヤ
斯ノ如クナルカ故ニ千八百四十六年頃ヨリ此事項ニ関シテハ

衆庶ノ注目スル所トナリ殊ニ西印度ニ西印度ノ植民等ハ其產
出ノ砂糖ヲ英國ノ釀酒者及ヒ蒸餾者ニ賣却スルノ妨礙ヲ生ス
ルヲ以テ大ニ英政府ノ非政ヲ咎メ頻リニ抗議シテ止ス故ヲ以
テ砂糖及ヒ糖蜜ヲ用ヒテ酒精ヲ蒸餾セシムルハ政府ノ果シテ
歲入上ヲ損害スルノ患ナキヤ否ヲ決スルハ實ニ當時ノ一大疑
問トナリ遂ニ國產稅局ノ精練室ニ於テ「ドブソン」「イリッブス」ニ
氏ニ命シテ大麦、麥芽、砂糖及ヒ糖蜜等ノ價直ヲ比較シ此數品ハ
蒸餾者及ヒ釀酒者ノ為メニ如何ナル關係ヲ有スルヤヲ試驗セ
レメ後チ博士「ファレン」氏ヲシテ其試驗ノ確實ナルコトヲ證セシ
メタリ
是ヲ以テ千八百四十八年ノ國會ニ於テハ從來蒸餾者ヲ使用ス
ル麥芽ノ稅ニ比均スルノ額ヲ除クノ外ハ悉ク砂糖ノ輸入稅ヲ
還償シテ酒精ノ蒸餾ニ於テ砂糖ヲ使用スルコトヲ許シ又其翌

年ニ於テハ糖蜜ヲ使用シ且此糖ヲ穀物、麦芽ニ混シテ使用スルヲ准許シタリ
抑々酒精ノ蒸餾ニ於テ砂糖及ヒ糖蜜ヲ使用スルノ量ハ恒ニ穀物ト砂糖ノ價直ノ關係ニ因テ増減シ取テ砂糖ノニ特立スルニ非サルナリ而シテ千八百五十六年ニ於テ酒精蒸餾ノ為メニ使用スル砂糖ハ二萬五千七百ポンド、レット、ウヱー、ト、ポント、カ、十三、二、分、百、十九、又、ニシテ糖蜜十五萬五千五百五十「ポント、レット、ウヱー」トナリシヲ以テ其量タルヤ預シメ慮ル所ノ者ニ比スレハ甚タ多カラサリキ蓋シ此砂糖ノ量ハ衆庶ノ糞消スル者ニ比較スレハ實ニ僅々タルニ過キスト雖氏現ニ之ヲ市場ヨリ將去セルヲ以テ大ニ其價直ヲ騰貴シタリト云ヘリ
千八百五十六年間酒精蒸餾ノ為メニ使用スル砂糖ノ量ハ當時ニ在テハ未曾有ノ巨額タリシニ拘ラス千八百六十一年二年ノ

交ニ至テハ糖蜜ノ使用ハ三十九萬一千四百四十三「ポント、レット、ウヱー」トノ多キニ及ヘリ蓋シ千八百五十六、七、七、年及ヒ千八百六十一、二、三、年間ハ常年ニ比スレハ其使用最モ盛ナルノ時ナリト雖氏一方ニ於テハ酒精ヲ輸出スルノ極メテ多カリシヲ以テ此等ノ品物ハ悉ク外國へ輸出スル酒精ノ蒸餾ニ允テ取テ内國糞消ノ為メニ使用スルニ非サルヲ了知スルニ足ルヘキナリ
千八百四十八年ニ於テハ更ニ酒精ノ蒸餾ニ関スル法律ヲ改正シタリシカ其要領ハ專テ商賈ニ便益ヲ與フルニ在テ即チ從來商賈等カ屢々請願セシ所ノ者ヲ採用シタルナリ
始メ蘇愛兩國ノ蒸餾者ハ精餾法ヲ用ヒスレテ糞消ニ適スヘキノ酒精ヲ製造セシカ千八百三十二年以降ハ納稅セシテ先ツ倉庫ニ寄貯スルヲ得ルノ特權ヲ有シタリ抑々此酒精ハ歲月ヲ經ルニ隨テ好味益々加ハリ價直愈々騰貴スルヲ以テ良シヤ倉

庫ニ在ルノ間自然ノ減量ヲ為シ他日納税スルノ至テ為ノ
ニ其税額ヲ減免スルヲ得サルモ當ニ損益相償フノミナラス尚
ホ税金ヨリ生スル所ノ利子ヲ併セテ之ヲ得ルカ故ニ彼ノ二國
ノ商賈等ハ頗ル其德澤ニ浴セリト雖モ若シ之ヲ英倫ニ輸送ス
ルハ直ニ納税セサル可ラサルノ不便アルヲ免レス是他ナシ
英倫ノ蒸餾者ハ唯々精餾者ノ為メニ酒精ヲ蒸餾シ之ヲ輸出ス
ルノ時ニ非サルヨリハ其特權ヲ得ルノ更ニ益ナキヲ以テ千八
百二十五年ノ議定ニ係ル酒精蒸餾法律ニ於テモ亦英倫國內ノ
靡消ニ供スル酒精ヲ倉庫ニ寄貯セシムルノ條款ヲ掲ケサレハ
ナリ

然ルニ蘇愛兩國ノ蒸餾者ハ此納税ヲ以テ不便ナリトシ縱令英
倫ニ輸送スルトモ猶其本國ニ於ルカ如ク倉庫ニ寄貯スルノ法
ヲ設ケテ酒精ノ滋味ヲ加フルヲ許可セラレシヨ欲シタレ

英倫ノ蒸餾者ハ固ヨリ已ニ裨益ナキノ事タルヲ以テ強テ其法
ヲ英倫ニ及ホサシムルニ及タラサリシナリ

既ニ斯ノ如クノ情勢ナルカ故ニ此問題ハ遽ニ行ハルヘキニ非
ス事申シテ止シカモ今ヤ外交日ニ開ケ貿易日ニ盛シニ酒精
ヲ輸出回漕スルノ量モ亦昔日ノ比ニ非サレハ終ニ前ニ掲クル
所ノ法令即千八百四十八年ノ法令ヲ以テ英倫ニ於ケル酒精
入庫法ヲ設ケ併セテ從前ノ諸規則ヲ改正シタリ其要領ハ即チ
左ノ如シ

- 一 合衆王國內甲部ノ倉庫ヨリ乙部ノ倉庫ハ酒精ヲ回送スル
ヲ得ヘシ但乙部ニ回着セシ以上ハ其所ニ於テ蒸餾シタル
酒精ト同一般ノ規則ヲ以テ處分スヘキ事
- 一 蒸餾者ハ保管證書ヲ納レテ酒精ヲ商賈ニ讓渡スヲ得ヘシ
但一旦讓渡セシトハ税金收納ノ責ハ商賈ニ

在ラザル事

一 事實止ヲ得サルノ變故ニ因テ換減シタル酒精ニハ賦税ノ額ヲ減免スル事

一 酒精ヲ輸出スルキハ始メ其製造ノ為ノニ使用シタル麦芽ノ稅ヲ還償スル事

一 輸出或ハ船用ノ為メニ倉庫ニ在ル酒精ヲ関庫関庫トハ稅借庫ヲ

ニ云ニ運移シ又精餾者ハ未ダ甘味ヲ加ヘサル精餾酒精ニシ

テ既ニ納税シタル者ヲ同一ノ目的ヲ以テ関庫ニ運移スル

ヲ得ヘシ但此際ニ於テハ既ニ收納シタル國産稅ノ全額并

ニ精餾酒精製造ノ為メニ使用シタル麦芽ノ稅ニ宛テ一瓦

倫ニ付キ一邊尼半ヲ還償スル事

一 酒精ヲ輸出スルノ前関庫内ニ於テ或ハ甘味ヲ加ヘ或ハ色

ヲ添シカ為メ之ニ他物ヲ混合シ得ヘキ事

蓋シ此改正ハ多年ノ經驗ニ由リ政府ノ歲入ニ損害ヲ與ヘサル

以上ハ務メテ從來ノ束縛ヲ解キ大ニ蒸餾者ノ便益ヲ計リタル

緊要中ノ緊要ナル變革ト云フヘシ況ニヤ其英倫ニ於ケル酒精

ノ入庫法ヲ設クルト合衆王國內ノ甲部ヨリ乙部ニ運移スルノ

法ヲ定ムルトニ至テハ帝ニ蘇愛兩國ノ蒸餾者ノ便益タルノニ

ナラス亦隨テ酒精ノ價直ヲ減却セルヲ以テ一方ニ向テハ英倫

人民ノ靡消ヲ倦患シ一方ニ向テハ益々全國ノ輸出貿易ヲ盛大

スルニ至リシニ於テオヤ

千八百五十三年ニ於テ蒸餾者等ハ酒精ノ倉庫内ニ在ルノ際自

然ノ蒸發若クハ吸盡等ニ因テ其量ヲ減スルアラハ賦税ノ額ヲ

減カセラレントヲ請願シタリオ共事タルヤ頗ル難事ニ属ス

ルヲ以テ為メニ遲々ニ決セサリシカニ遂ニ入庫時日ノ長短

ニ隨テ其數量ヲ定ムルハ法ヲ

千八百五十九年ニ至ル迄之

ヲ施行シタリキ其後千八百六十一年及千八百六十四年ヲ以テ之ヲ改正シ額ル其法ヲ寛セリ
蘇格蘭ニ於テ酒精稅ヲ一瓦倫ニ付キ三司令八邊尼ニ減セシ以
來ハ密造ノ弊風大ニ止ニ今邊ニ英倫ニ均シキ稅額ヲ課スルモ
死火再燼ノ患ナキニ至リシヲ以テ千八百五十三年ニ於テ一瓦
倫ニ付キ一司令ヲ增課シタリ又同時ニ愛爾蘭ノ酒精稅ハ邊尼
ヲ增課シタリト雖モ其成績ハ未タ蘇格蘭ノ如キニ至ラザリキ
億フニ當時愛爾蘭ノ酒精稅ヲ增課スルニ至ルハ千八百四十二
年ノ倍稅ニ於テ良シヤ其目的ノ一着ヲ誤ルニセヨ大ニ實驗ス
ル所アリテ然リシヲ知ルニ足レリ例ハ第一穀物ノ價直益々
昂貴ナル第二人民ノ地位頗ル上進シテ法禁ノ犯ス可ラザルヲ
知リ第三運輸ノ便ヲ疏通シテ市場ノ交通ニ易ラシムルヨリ土
産日々ニ興リ第四從前酒精ノ密造ニ從事スル者カ或ハ凶年飢

歲ニ遭テ其命ヲ損シ或ハ自ラ奮起シテ他國ニ移住スル等ノ如
キ即チ是ナリ否千八百四十二年ト千八百五十三年ト同一ノ舉
行ニシテ其結果ヲ同セサルノ理由ニ関シテ世人ノ説ク所如何
ニ拘ラス愛爾蘭ノ人民カ千八百五十三年前ニ比スレハ重稅ヲ
負擔スルニ堪フヘキハ衆庶ノ普ク知ル所ナリ是ニ於テカ千八
百五十四年ニ於テハ其率ヲ增シテ四司令ト爲シ其翌年ニハ六
司令ニ邊尼ト爲セリ

愛爾蘭ノ形狀ニ於ケルヤ既ニ斯ノ如シ然ルニ蘇格蘭ニ於テハ
其率ヲ増加スル頗ル過重ナリト雖モ敢テ危難ノ状アルヲ見サ
ルハ抑ク其原因ナキニ非ス蓋シ此兩國間ニ收稅ノ沿革ヲ異ニ
スル所以ハ次編ニ於テ備サニ聞陳スヘキヲ以テ今茲ニ之ヲ贅
セス

抑々英蘇兩國タルヤ土壤相接ニ刑歸一ニシテ疆界ノ分盡ス

ハキ無ク然ルニ獨リ賦税ニ至
交際ノ自由ヲ妨クルニ足ルノミ是ヲ以テ曩ニ蘇國ノ酒精稅ヲ
増カシテ英國ノ額ニ至ラシメタルモ未タ以テ人民ノ志望ヲ充
タスニ足ラス何トナレハ從來麦芽稅ノ還償法ハ之ヲ蘇國ニ設
ケテ英國ニ施サリシカ今ヤ英國ノ蒸餾者ハ其法ノ英倫ニ及
ブヲ欲セサルノミナラス亦百方之ヲ排撃シテ止サレハナリ故
ニ千八百五十五年ヲ以テ麦芽稅ノ還償法ヲ廢止シ併セテ全國
内無稅品ヲ以テ酒精ヲ蒸餾シ得ヘキヲ許可シタリ蓋シ此變
革ハ曁ニ英蘇兩國ノ貿易ヲ振起シテ彼稅ノ交際ヲ親密ナラシ
ムルノミナラス兼テ政府ノ用度ヲ節度スル等其結果ノ功ニ於
ケルヤ實ニ枚舉スルニ遑ラス例ヘハ從來台衆王國內ノ甲部ヨ
リ乙部ニ搬送スル藥用及ヒ甘味ノ酒精ニ或ハ均稅ヲ課シ或ハ
其稅ヲ還償スルカ如キ錯雜ノ稅法ヲ發シ或ハ國疆ノ犯禁預防

中區ヲ廢シテ政府ノ用度ヲ節シ或ハ英倫ニ向ヒ行旅スル者ノ
旅具ヲシテ復檢査スルヲ要セサルカ如キハ即チ其証ナリ
千八百五十八年第四月十七日ニ於テハ愛爾蘭ノ酒精稅一瓦倫
ニ付キ六司令ニ邊尼ヲ增加シテ八司令ト為シ以テ英倫ノ稅率
ニ均當セシメタリ是ヨリ先キ愛爾蘭ノ酒精廢消高ハ三年間ノ
平均六百七十二萬三千五百十四瓦倫ナリシヲ以テ此例ヲ推セ
ハ六十一萬六千磅ノ增額ヲ得サル無キニ非サレト或ハ實施舉
行ノ際倍稅ノ為メニ著ルク其廢消ヲ減セントヲ恐レ其增額ヲ
五十萬磅ナリト豫算セシニ豈ニ料ラシヤ豫算其實ヲ失ヒ商賈
等ハ豫メ此舉アラシク慮リ未タ倍稅ノ布告アラサルニ多量ノ
酒精ヲ倉庫ヨリ運出シタルヲ以テ大ニ政府ノ歲入ヲ減スルニ
至レリ茲ニ其概要ヲ掲ヘンニ千八百五十八年間酒精ノ廢消額
ハ五百六十五萬五千五百瓦倫ニシテ平均百零六萬八千零十四

瓦倫ヲ減又倍稅ノ收額ハ僅ニ八萬五千六百二十五磅ナルヲ
以テ彼ノ豫算額トノ差十萬零三十磅ハ即チ第四月一日乃至十
七日ノ間ニ運出シタル酒精ノ差ニ損減スル者ナリ
千八百五十八九年ノ交ニハ本寮ノ准許ヲ經テ米穀ヲ以テ酒精
ヲ蒸餾スルノ試驗ヲ為ス者アリシカ此製造ノ方法ハ未ダ全國
内ニ普及スルニ至ラサルモ當時大ニ其功ヲ奏セシカ故ニ其後
酒精蒸餾法ヲ改正スルニ臨テハ悉ク米穀ノ使用ニ抵觸スルノ
條件ヲ廢シタリ

千八百六十年第二月大藏卿カ會計豫算表ヲ公示スルヤ其中佛
蘭西國トノ通商條規ニ於テ外國製ノ酒精ヲ輸入スルニ内地ノ
酒精蒸餾者カ國產稅ニ因テ損害支障ヲ蒙ルヲ以テ為メニ若干
ノ輸入稅ヲ倍加スルノ外ハ内地製ノ酒製ト同一ノ稅ヲ收ムハ
ク而シテ此輸入倍稅ハ一瓦倫ニ付キニ邊尼ニ超ハサルハシト

12

ノ一欸ヲ載タルヲ以テ内地ノ酒精蒸餾者ハ自ラ以為ク夫我輩
カ酒精ノ蒸餾ニ於ケル特殊ノ稅法ニ勾束セラレ為メニ利益ヲ
失フヤ尠シニ非ス然ルニ僅々ニ邊尼ノ倍稅ヲ以テ之ヲ償ハシ
ト欲スルハ抑々何ノ心ソヤト是ニ於テカ心竊ニ政府ニ建議ス
ル所アラシク期セリ

抑々佛蘭西國トノ條約ニ依テ定メタル倍稅ノ額ハ我海外植民
地ヨリ輸入スル酒精ニ課スル者ニ比均ヤシメタルニ外ナラス
然ルニ海外植民地ヨリ輸入スル酒精ノ稅タルヤ一瓦倫ニ付キ
一司令六邊尼ニシテ其内一司令四邊尼ハ間接ニ於テ國產稅法
ノ支障ヲ償ハシメントノ意ニ出タリト雖此區別稅ノ差異ハ
第一千八百四十一年内地酒精稅ノ倍加ト第二植民地ヨリ輸入
スル酒精稅ノ減額トニ因テ漸次ニ減少シタリシカ蓋シ第二ノ
減稅ハ千八百四十八年砂糖及ヒ咖啡植產ノ事ニ關シテ議院委

負ノ建議 因テ施行シタリト准ニ當時内國ノ蒸餾者カ該委員
ニ開申シタル意見書トハ選定スル所ナキニ非サリキ
斯ク植民地製ノ酒精稅ヲ減シテ大ニ其輸入ヲ獎勵シタルニ拘
ラス内國ノ蒸餾者ハ釋然トシテ曾テ介意スル所ナキハ何ソヤ
蓋シ當時ニ在テ内外ノ酒精稅ヲ比較スルニ植民地製ノ酒精稅
ハ内國製ノ者ヨリ重キ一瓦倫ニ付キ僅ニ二邊尼ニ過キスト
雖ニ速ク之ヲ海外ヨリ輸スヲ以テ多少ノ運費ヲ要スルノミナ
ラス其物タル糖水ヲ以テ製造スル者ニ係ルカ故ニ取テ内國人
民ノ靡消ニ供スルニ足ラサルヲ知レハナリ況ンヤ杜松酒ノ基
礎タル内國製ノ酒精ト衡ヲ市場ニ争フ可ラサルニ於テオヤ
然ルニ歐洲大陸ニ於テ製造スル酒精ニ至テハ否ラス其物タル
ヤ葡萄酒ヲ以テ製造スルカ故ニ香味甚ク佳ニシテ價直隨テ貴
シ又日耳曼荷蘭白耳蕒等ニテ製スル者ハ其使用ノ原質ハ我邦

ノ酒精ニ異ナル無ク且此等ノ諸國ニ於テハ内國ニ比スルハ賦
稅ノ額極メテ輕ク稅法ノ束縛隨テ減ス況ンヤ其隣國ヨリ輸入
スルノ運費ニ至テハ取テ内地ノ各部ヨリスル者ニ異ナラサル
ニ於テオヤ斯ノ如クナルカ故ニ佛蘭西ノ條約ヲ公布スルヤ各
地ノ蒸餾者ハ直ニ代議人ヲ撰舉シテ大蔵卿及ヒ本寮ニ就テ已
ノ意見ヲ開陳セシメ速ニ稅法ヲ改革シテ内外ノ權衡ヲ回復セ
ンヲ要求シタリ
誰カ余等ノ言ヲ以テ不正ナリトスル乎余等ハ實ニ本寮ノ稅則
ノミニ於ケルモ猶酒精製造費ノ一瓦倫ニ付キ五邊尼ノ半ヲ增
加スルヲ知ル況ンヤ海關ニ於テ外國酒精ノ稅ヲ計算スルノ方
法タル之ヲ内國稅ニ比スルハ甚ク寛裕ナルヲ以テ其差異ハ一
瓦倫ニ付キ四邊尼ナシヲ然ハ則テ内國ノ蒸餾者カ要求スル
所ハ少ク五邊尼半ニ下ルヲ得サルナリト是蓋シ余等カ代議

人ノ開陳スル所ニ據リ自ラ信シテ疑ハサル所ノ要點ナリ將タ
本察ニ於テハ政府ノ命令ヲ遵守シテ務メテ製造者ノ束縛ヲ解
カシトテ欲シ即チ左ノ改正案ヲ議シタリ

一 磨粉石ヲ以テ麦芽ヲ磨碎スルノ禁法ヲ廢止スヘキ事

一 蒸餾室ニ於テ製造シタル酸酵ヲ使用シ或ハ之ヲ販賣スル
ノ禁法ヲ廢止スヘキ事

一 共有ノ蒸餾室ヲ設ケテ恒ニ之ヲ使用スルノ禁法ヲ廢止ス
ヘキ事

一 毎年決算表ヲ調製スルノ法ヲ廢止スヘキ事

一 倉庫内ニ在ルノ際酒精ノ減量スル者ニ大ニ賦税ノ額ヲ免
減シ且事實止ヲ得サル變故ニ因テ損失シタル酒精ニ賦税
ノ額ヲ免除スルノ簡法ヲ設クヘキ事

一 蒸餾ノ為メニ使用スル麦芽ヲ製造スルニ共費用ヲ浪費ス

ルニ足ルヘキ束縛法ヲ廢止スヘキ事

若シ果シテ内國ノ蒸餾者ニ斯ノ如キノ特許ヲ付與スルニ於テ
ハ之ヲ貨幣ニテ算計セハ純華ノ酒精ハ一瓦倫ニ付キニ邊尼混
和ノ酒精及ヒ精餾酒精ハ三邊尼ノ賦税ニ比均スルニ足ルヘキ
ヲ查出シ又外國ノ酒精ニ倍稅ヲ賦課スルノ場合ニ於テハ輸入
ノ酒精中他物ヲ混和シテ色ヲ加フル者ハ之ノ力強弱ノ度ヲ査定
スルニ由ナク冥々ノ間獨リ利益ヲ占有スル無キニ非サルヲ以
テ一瓦倫ニ付五邊尼ノ倍稅ヲ課セハ内外ノ酒精稅ヲシテ其平
準ヲ得セシムルニ至ルヘシト決議シタリ
今ヤ千八百六十六年間内國ノ酒精蒸餾者カ區別稅ノ倍額ヲ倍加
セントテ要求シタルノ條件ヲ掲クルハ頗ル年月ノ次序ヲ失ス
ル所ナキニ非スト雖ニ殊ニ之ヲ記スルハ酒精稅ノ沿革ヲシテ
完全ナラシメント欲スルカ為メ

讀者若シ左ノ表ヲ閱覽セハ當時内國ノ蒸餾者ヲ要求シタル倍
 稅ノ額ト千八百六十五年ニ於テ之ヲ准許シタル者トノ概略ヲ諒スルニ足ル
 商議ヲ經テ而シテ後ニ准許シタル者トノ概略ヲ諒スルニ足ル
 ハキヲ信ス

第一	第二	第三	第四	第五
輸入穀物稅ノ還償	同時ニ酒精ヲ釀造シ及ヒ蒸餾スルヲ禁止スルノ損害	酒精ヲ釀造スルノ際各樽ノ新酒ヲ混和スルヲ禁止スルノ損害	精餾酒精ノ稅及ヒ家屋ヲ異シテ酒精ニ加味スルノ損害	外國製ノ加色酒精ニ就テノ還償
一邊尼ノ四分三	一邊尼半	一邊尼ノ四分一	三邊尼	二邊尼
全	全	全	全	全
千八百六十六年蘇格蘭蒸餾者ノ要求シタル倍稅ノ額	千八百六十六年英倫蒸餾者ノ要求シタル倍稅ノ額	千八百六十年間ニ准許シタル倍稅ノ額	一邊尼	全
全	全	全	二邊尼半	二邊尼半
千八百六十六年間本國ノ商議ヲ經テ准許シタル倍稅ノ額	無色ノ酒精	有色ノ酒精	全	二邊尼半
全	一邊尼	一邊尼	全	二邊尼半

第六 麦芽稅ヲ製造スルニ 付キ國產稅法ノ校束 ニ因テ製造費ヲ増 加スルノ運償	一邊尼 <small>四分一</small>	半邊尼			
第七 外國酒精ノ輸入稅ヲ 算計スルノ法ヲ異ニシ 以テ國產稅ヲ重スル ノ運償	一邊尼	一邊尼半			
第八 外國酒精ノ稅稅及 ニ關連ヨリ貨物 運出スルノ運償	一邊尼 <small>四分一</small>				
	九邊尼	九邊尼半	五邊尼	四邊尼半	六邊尼 <small>四分三</small>

此數項ノ中第二同時ニ酒精ヲ釀造シ及ヒ蒸餾スルコトヲ禁止スルノ運償ニ関シテハ英倫ノ蒸餾者ハ千八百六十年ニ於テ二邊尼ヲ要求シ蘇格蘭ノ蒸餾者ハ千八百六十六年ニ於ケルカ如ク一邊尼半ヲ要求シタリシカ兩國ノ蒸餾者ニシテ其算計ヲ異スル既ニ斯ノ如シ之ヲ如何ニテ共執レオ是ニシテ執レカ非ナルヲ判スルヲ得ヘケンヤ是ヲ以テ細ニ蒸餾器具ノ代價修繕點火石炭等ノ經費ヲ精査シテ禁法ノ為メニ幾許ノ損害ヲ蒙ルヤヲ探究セシニ蒸餾者等カ要求スル所ハ大ニ其實ヲ失フコトヲ查出シタリ

第四ノ運償ヲ分ツテニ種ト為ス其一ヲ既ニ納稅シタル酒精ヲ精餾シテ貯蔵スルノ後之ヲ賣却スルノ間ニ生スル所ノ減量ノ運償トシ其二ヲ蒸餾室ニ於テ酒精ヲ精餾スルコトヲ禁止スルカ為メニ生スル所ノ損害ノ償還トス蓋シ第一種ノ運償ノ為メニ

大義

允可スル所ノ額ハ素ト一邊尼ニ止リシカ今之ヲ重ナル蒸餾室
ニ就テ試ミルニ貯蔵ノ間ニ生スル所ノ減量ハ殆ント其原計ノ
百分ノ一ニ及ヒ且ツ當時酒精税ノ額ハ一瓦倫ニ付キ十司令ニ
マテ増加シタルヲ以テ本寮ニ於テハ一邊尼四分一ノ還償ヲ允
可スルヲ決定シタリ又其第二種ノ蒸餾室ニ於テ酒精ヲ精餾
スルヲ禁止スルノ事項ニ関シテハ屋室器具運車備金等ノ經
費ヲ精査セシニ其損害ヲ償フハ一邊尼ニシテ尺ルヘキヲ驗
出セリ

其第五項ノ還償ニ関シテハ本寮ニ於テ允許スル所ノ額ノ蒸餾
者ノ要求スル所ニ起ル所以ノ者ハ他ナシ千八百六十年乃至十
八百六十六年ノ間外國酒精ノ税ハ増加シテ八司令ヨリ十司令
ニ至リ而シテ之ニ加色マル中ハ秤水器ノ標示スル所其實計ヨ
リ大約百分ノ二ヲ減スルヲ以テ其還償ノ額モ亦税率ニ隨テ變

更セサル可ラサレハナリ

其第六第七第八項ニ於ケルヤ本寮ニ於テハ其要求スル所ノ允
可ス可ラサルヲ決議シ又其第七項ナル海關ト本寮トノ間賦
税額算定ノ法ヲ異ニシ為メニ損害ヲ蒙ルトノ口實ヲ以テ要求
スル所ノ還償ヲ允許セザリシ所以ノ者ハ蓋シ内國ノ精餾者カ
外國ノ精酒ヲ購入スルノ際本寮ノ吏員ヲシテ其容量ヲ驗査セ
シメタルニ彼税ノ算定スル所ハ概子符合シ其符合セザル者ノ
場合ニ於テハ海關ノ算定スル所多クハ國產稅吏ノ算定スル所
ニ起乘スルヲアレハナリ

若夫前ノ數項ヲ閱シ來リ本寮ニ於テハ其萬一ニ誤謬アラシ
ク恐レテ餘裕ヲ與フルノ既ニ斯ノ如ク其レ寛大ナルヲ知ラハ
其加色ノ精酒ニ就テ蒸餾者カ稔訴スルノ理ナキヲ解得スルニ
足ルハシ又ヤ業已ニ穀物ノ輸入稅ヲ廢止スルニ於テヤ然ル

モ猶此種ノ酒精ニ関シテ不滿ノ意ヲ包蔵スルハ殊ニ怪ムヘキ
ニ非スヤ
今ヤ酒精蒸餾者及ヒ精餾者ハ國産稅法ノ檢束ハ一瓦倫ニ付キ
二三邊尼ノ損害ニ當ルヘキヲ實驗シテ為メニ請願スル所アラ
ント欲セシカ遂ニ千八百六十年ヲ以テ海外植民地及ヒ他邦ノ
市場ニ於テ外國ノ酒精ト競争ヲ維持センニハ酒精ヲ輸出スル
ノ際國産稅ノ還償ナカル可ラサルヲ要求シタルカ故ニ同年
第三月五日下午議院ノ決議ヲ經テ純萃ノ酒精ヲ輸出スルニハ一
瓦倫ニ付キ二邊尼混和ノ酒精ヲ輸出スルニハ三邊尼ノ還償ヲ
為スヘキヲ布告シ此還償ニ因テ減スル所ノ歲入ハ内國蒸餾ノ
酒精一瓦倫ニ付一邊尼ノ倍稅ヲ課シテ之ヲ補ヘリ是ニ於テカ
大藏卿ハ大ニ政府ノ歲入ヲ増加スルヲ得タルノミナラス兼テ
酒精ノ輸出者ヲシテ復テ恨ムル所ナキニ至ラシメタリ

本寮ニ於テ當時施行スル所ノ規則ヲ改正スヘク建議シ或ハ他
ノ照會ニ因テ改正スルモ可ナルヘク回答シタル條件ハ酒精蒸
餾法改正案中ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ贅セス
曩ニ佛蘭西國ト條約ヲ批准スルノ時ニ方テヤ内國製酒製ノ稅
ハ一瓦倫ニ付キ八司令一邊尼ニシテ其後輸出酒精ノ還償ヲ補
ハンカ為メニ一邊尼ヲ倍加シタリシカ千八百六十年ノ國會將
ニ撤セントスルノ際ニ臨ニ邊ニ歲入ノ不償ヲ告クルカ故ニ哥
刺德斯頓氏當時ノ大藏卿ハ第七月十七日ヲ以テ酒精稅一司令
十一邊尼ヲ倍加スヘキヲ發言シテ之ヲ施行シ終ニ今日ノ酒精
稅十司令ナルニ及ヘリ
斯ノ如ク大藏卿ハ當時歲入ノ不償ヲ補ハンカ為メニ酒精ノ稅
ヲ倍加スルニ拘ラス實ニ千八百六十年乃至六十一年ノ交ニ至
リ其收額ノ却テ前年ニ減却スル所以ノ者ハ何リヤ蓋シ曩ニ佛

蘭西國トノ條約將ニ成ラントスルニ臨ミ内國ノ酒精蒸餾者ハ豫ノ賦稅ノ倍加スルヲアラセテ臆想シ概子倉庫ニ寄貯スル所ノ酒精ヲ搬出シタルハナリ今其概畧ヲ述シニ千八百六十年第二月大蔵卿カ會計豫算表ヲ公布スル前ノ二週間ニ於テ倉庫内ヨリ搬出シタル酒精ノ量ハ二百二十四萬二千毛倫ノ多キニ至リ之ヲ千八百五十八年ノ當時ニ比スレハ百三十五萬毛倫ヲ超過シタリシカ幾モナク倍稅ノ舉ナキヲ知ルニ及テハ搬出ノ量頓ニ減却シ現ニ第二月十二日乃至第三月三十一日ノ間ニ搬出スルノ量ハ之ヲ千八百五十九年ノ當時ニ比スルニ五十二萬九千毛倫ヲ減スルニ及ヘリ夫斯ノ如ク第二月間ニ於テ大約八十萬毛倫ニ納稅シテ之ヲ搬出セリト雖モ其實ハ千八百六十一年第三月三十一日ヲ以テ終ル會計年度ノ廢消ニ充タルニ外ナラザルナリ

茲ニ倍稅ノ前年千八百六十一年及ヒ倍稅後二年千八百六十二年間ノ現收入稅額ヲ示サハ

會計年度	稅額 (磅)	增額 (磅)
千八百六十年第三月三十一日ヲ以テ終ル會計年度	九、四、五、八、九、六、〇	、
千八百六十一年第三月三十一日ヲ以テ終ル會計年度	九、五、四、五、五、三、八	八、六、五、七、八
千八百六十二年第三月三十一日ヲ以テ終ル會計年度	九、六、一、八、二、九、一	一、五、九、三、三、一

然リト雖モ若シ此表式ニ據ラス既ニ千八百六十年間ニ算入シタル八十萬毛倫ニ此稅三十ノ稅額ヲシテ之ヲ翌年ニ配分セシメハ即チ左ノ如キニ至ル是蓋シ其實計ナリ

歳首

既ニ此表ニ示スカ如ク倍税ノ結果ハ遽ニ政府ノ歳入ヲ増加ス
ルニ至ラスト雖モ然モ其實因ニ至テハ却テ之ニ及ズル者ナキ
ニ非ス將タ其詳細ハ之ヲ第 葉ニ鮮明スヘキナリ
千八百六十四年「ホルスフォール」氏カ委員ニ命セテ海關内國ノ
兩稅ニ関シテ臨時會議ヲ開クニ方テヤ證人等ハ内國製酒精ノ
関庫ニアル者ハ之ヲ外國ニ輸出スルニ非サルヨリハ後々内國
ノ廢消ニ供スルヲ得ストノ成法ノ不便ナル所以ヲ引證シ苟モ
此制限法ヲ解テ内外ノ別ナク市場ノ景況ニ隨ヒ買客ノ要求ニ
應シテ之ヲ賣却スルノ自由ヲ得セシメハ酒精商賈ノ益スル所
蓋シ尠少ニ非サルヘキノ状ヲ開陳セリ是ヲ以テ本寮ニ於テハ
直ニ之ヲ議院ニ建議シタリシニ千八百六十四年ノ決議ニ依テ
内國製酒精ノ入庫法ヲ改定シ「第一」其甘味ヲ加ヘサル酒精ハ國
産稅庫ヨリ関庫ニ運搬スルノ後國産稅ヲ納メテ之ヲ搬出シ以

テ内國ノ廢消ニ供スルヲ得ヘキヲ尤可シ又「第二」此酒精ヲ寄
貯スル関庫ハ國産稅庫ト同一ノ保守ニ從ハサル可ラサルヲ
令シタリ之ヲ簡說セハ此関庫ハ既ニ納稅シタル酒精及ヒ葡萄
酒ヲ寄貯スル者ト其場所ヲ異ニシ且其稅額ハ海關官吏ノ收入
スル所ナリト雖モ必ラス國産稅法ニ隨テ之ヲ收メサル可ラス
ト云フ義ナリ蓋シ第二ノ法令ヲ發スルノ前ニ方テヤ兩局共ニ
内製外製ノ別ヲ問ハス總テ同一ノ規則ヲ以テ其稅ヲ收メシ
ヲ冀望シ互ニ商議スル所アリト雖モ其「内國酒精」ハ酒精ヲ注
入スルノ前收稅吏負ニテ各樽ノ容量ヲ查定スルヲ得ルモ其「
外國酒精」ハ僅ニ外部ノ積面ニ就テ其容量ヲ臆算スルニ過キ
ルカ故ニ必ス萬一ノ違算ヲ恐レテ幾分ノ餘裕ヲ與ヘサル可ラ
ザルヲ如何センヤ是ニ於テカ邊カニ共諒ヲ變シテ終ニ前ノ法
令ヲ發スルニ至レリ

又同時ノ決議ヲ以テ酒精ヲ倉庫ニ寄貯スルノ際其容量ノ自然
ニ減耗スル者ニ賦税額ヲ減免スルノ法ヲ改正シタリシカ蓋シ
其事ノルヤ唐ニ政府ノ歳入ニ於ルノミナラス亦酒精ノ賣買ニ
関シテ利害得失ノ係ル所極メテ大ナルヲ以テ之ヲ改正シテ今
日ノ域ニ至ルニハ實ニ數年ノ星霜ヲ經過シタリキ
回想スルニ千八百五十三年前酒精ノ倉庫内ニ在テ其量ヲ減ス
ル者ニ賦税ノ額ヲ減免セサルノ時ニ當テヤ賦税ノ率ハ重キニ
非ス當時蘇格蘭ニ於テハ一尼倫ニ付キニ司令ハ邊尼ヲ課セリ且當時
内國製ノ酒精ヲ倉庫ニ寄貯スル者ハ實ニ僅々ニシテ良シヤ賦
税額ノ減免ナキモ歲月ヲ經ルニ隨ヒ益々其價直ノ騰貴スルヲ
以テ損益相償フニ足リシオ其後十年間酒精稅ノ倍加スルニ及
テハ大ニ其勢ヲ異ニシ蒸餾者及ヒ商賈等ハ之ヲ搬出スルノ際
ニ於テ現存スル所ノ者ニ非サルヨリハ復タ税金ヲ過納スルヲ

得サルヘシト扶論スルニ至レリ故ニ千八百五十三年ニ於テハ
尋常ノ酒精ヲ試験シテ堅牢ノ樽ニ装入スル者ト為シ倉庫ニ寄
貯スル期日ノ長短ニ隨テ自然ノ減量ヲ預定シ次ニ千八百六十
年ニ至テ之ヲ改正シタリシカ此減量ノ定度ハ之ヲ平均スルニ
頗ル寛裕ノ處置ニ出タルニ拘ラヌ或ハ揮發ノ過度ナルト樽材
ノ堅牢ナラサル倉庫ノ完全ナラサルトニ因テ不慮ノ減耗ヲ生
スル無キヲ免レサルカ故ニ其減量ノ不正ノ所為ニ出ルニ非カ
ル以上ハ收税監督ニ於テ之ヲ久可スルヲ得ヘシト定メタリ是
ニ因テ之ヲ觀レハ酒精ノ減量ヲ豫定スルノ法ハ到底實施ス可
ラサル者ニシテ從來本寮ニ於テ蒸餾者ノ奸計ヲ預防センカ為
メニ設クル所ノ法ヲ斟酌スルニ至リシモ蓋シ其原因ナキニ非
サルナリ
又前ノ決議ヲ以テ酒精ノ倉庫内ニ在ルノ際其量ヲ減耗スルモ

其減量ノ不正ノ可為ニ出ルニ非ル以上ハ之ヲ搬出スル時ノ現
量ニ隨テ其稅ヲ收ムヘシトノ法ヲ設ケタリシカ抑々此法ヲ實
施スルニ於テ獨リ信依ヲ屬セサル可ラサル者ハ收稅吏負ノ廉
直ナルト恒ニ注意ヲ怠ラサルトニ在ルヤ固ヨリ論ヲ待タサル
ナリ而シテ從來ノ經驗ニ據ルニ此等ノ事ハ深ク思慮ヲ勞スル
ニ足ラスト雖モ實際ニ於テハ本寮及ヒ收稅吏負ヲシテ判決ノ
便ニ供セシメシカ為メニ猶酒精減耗ノ預定法ヲ用ヒ又非常ノ
減耗アルニ際シテハ稅額ヲ減免スルノ前必ス密案検査セシメ
リ
又次ニ蒸餾者ニ許スニ在ル酒精ニ水ヲ和スルヲ得ヘ
キヲ以テセリ是蓋シ蘇格蘭ノ蒸餾者ノ懇願ニ出テ、而シテ今
左ニ其懇願ノ狀ヲ揭示スル所以ノ者ハ他日此重大ナル産業ニ
關スル國產稅法ヲ改定スルニ當テハ必ス參考ノ一助タルヘシ

ト思惟スレハナリ

曩ニ酒精ノ倉庫内ニ在テ其量ヲ減スル者ニ賦稅ノ額ヲ減免ス
ルノ法令ヲ發スルヤ蘇格蘭ノ蒸餾者ハ之ヲ將テ僅ニ倫敦ノ蒸
餾者ト競賣ヲ維持スルカ為メ隨テ生スル所ノ不利ヲ償フニ過
キサル者ト為シ今ヤ隨テ得テ蜀ヲ望ムノ志念ナキ能ハス依テ
備ニ其情狀ヲ陳言シテ曰ク夫倫敦精餾者オ酒精ヲ購入スルヤ
驗精度ニ十五度ニ超過スル者ヲ以テ適度トシ其度ニ過クル者
ハ決シテ購入スル無シ是商賈ノ私法之ヲシテ然ラシムレハナ
リ然ルニ蘇格蘭ニ於テ製造スル酒製ハ驗精度ノ超過スルト六
十度ニ及ヒ加フルニ倫敦ノ國產稅庫内ニ於テ酒精ニ水ヲ和ス
ルハ法律ノ禁止スル所ナルヲ以テ以テ丁堡ヨリ倫敦ニ輸送スル
ノ前ニハ必ス水ヲ和シテ購入者ニ適マヘキノ度ニ至ラシメサ
ル可ラス亦隨テ運賃ヲ浪費スルヤ尠少ニ非サルナリ故ニ曩ニ

減免スル所ノ額ヲシテ今一層寛裕ナラシムルニ非サルヨリハ
安シク能ク倫敦市場ニ於テ競争ノ地位ヲ保ツテ得ンヤ若シ夫
政府ニシテ此情願ヲ允可スル無クニハ更ニ國産稅局ニ於テ其
權限ノ及フ所ハ務メテ倫敦ノ商賈ト平等ノ地位ヲ有スヘキノ
規則ヲ設ケテレントヲ冀望セサル可ラス唯其然リ故ニ今假リ
ニ國産稅法ヲシテ無ラシメ驗精度ヲ超過スル六十度ノ精酒ヲ
倫敦ニ輸スノ後之ヲ水ヲ和シテ揮發ノ度ヲ減スルヲ得セシム
ルニ非サル以上ハ未タ以テ該地ノ蒸餾者ト平等ノ地位ニ至レ
リト云フ可ラサルナリ嗚呼蘇國蒸餾者ヲ稅法ノ為メニ其利ヲ
失フヤ既ニ此ノ如シ之ヲ奈何ソ倫敦蒸餾者ト平等ノ地位ヲ有
セントテ請願スルノ權利ナレトセンヤ
本局ニ於テハ此請願ノ實ニ止ヲ得サルニ出ルヲ以テ直ニ之ヲ
允可セラレントテ欲スト雖モ毫モ制限ヲ設ケスシテ之ヲ一般

ノ倉庫ニ及ホスヲ得ス故ニ別ニ倉庫ヲ區畫シテ水ヲ和セシム
ルニ決シ即テ前ノ法令ヲ廢スルニ至リシナリ
又同時ノ法令第五條ハ一見シテ苛察ノ稅法タルヲ覺ユルカ故
ニ本案ニ於テハ之ヲ實施スルニ忍ビサルヲ如何セニヤ抑モ此
條款ノ本旨ハ蒸餾者若クハ倉庫主ヲシテ既ニ納稅シタル酒精
ヲ甲樽ヨリ乙樽ニ移スニハ別ニ一室ヲ設ケテ舉行セシメノ收稅
吏負ハ之ニ蒸テ酒精ノ量ヲ検査シ始メテ之ヲ納庫スル時ノ量
ニ幾分ヲ超ユルヲアレハ更ニ其過量ニ納稅セシムルニ在リト
雖モ概シテ之ヲ言ヘハ一タビ納稅シタル酒精ハ取テ收稅吏負
ノ預リ知ル所ニ非ス然ルニ今ヤ蒸餾者若クハ倉庫主ノ日常ノ
職業ヲ妨害スルニ拘ラス此法令ヲ遵守シテ検査スル所以ノ者
ハ唯間接ニ於テ政府ノ歲入ヲ回護スルニ足ルヘキノ良法タル
ヲ信スレハナリ

大藏省

千八百五十三年前ニ至テ蒸餾者ハ官端ヲ附セサル倉庫内ニ酒
精ヲ儲ヘ購入者ノ求メニ應シテ隨意ニ配合混和スルヲ得タリ
シカスノ如キハ私曲奸計ヲ行フノ殊タルニ過キサルカ故ニ遂
ニ千八百五十三年ニ於テ之ニ官端ヲ付シテ保守倉庫規則ヲ遵
奉セシメ又同時ニ實際ノ便利ヲ得セシメシカ為メニ既ニ納稅
シタル酒精ハ一樽ヲ限リ之ヲ無稅品貯藏倉庫ノ中ニ置テ購入
者ノ求ニ應スルヲ得ヘキノ令ヲ發シタリ當時此法令ヲ發スル
ヤ蒸餾者カ同時ニ於テ酒精ヲ甲樽ヨリ乙樽ニ移スハ必ス一樽
ノ外ニ出テサルカ故ニ無稅品貯藏倉庫内ニ於テ舉行セシムル
モ他ノ無稅品ノ保守ニ妨碍ナカルヘシト思惟セシニ豈料ラン
ヤ蒸餾者ハ同時ニ數樽ヲ配列シテ注移混合タルニ因リ監視ノ
吏員ハ殊ニ煩勞ニ堪ヘサルノミナラズ亦タ將ニ充分ノ保守ヲ
行フ可ラサルニ至レリ是ニ於テカ本寮ニ於テハ其權利ノ及フ

所ハ務メテ之ヲ改正セント欲シ其注移スヘキ各樽ヲ倉庫内ノ
一空ニ集ムヘキヲ指令シタレモ未タ以テ満足ノ域ニ至ラズ
故ニ更ニ議院ノ裁可ヲ經テ既ニ納稅シタル酒精ハ全ク保守倉
庫内ニ在ル酒精ト區別シテ注移混合セサル可ラサルヲ令シ
タリ
千八百六十五年ノ交ニ於テハ内國ノ雜酒ニ供スヘキ英國混
和酒精ノ入庫法ヲ製定シメリシニ蓋シ此法ハ啤蘭地製造者ノ
請願ニ因テ成ル者ナリ今其請願ノ要領ヲ掲ケンニ夫外國ノ啤
蘭地ハ歲月ノ長短ニ拘ハラズ稅額ヲ納メスシテ関庫ニ寄貯ス
ルヲ得ルノミナラス尙之ヲ寄貯スルノ久シキニ隨ヒ益々其價
直ヲ騰貴スレハ内國ノ市場ニ於テ之ト競賣スルノ利益ナキヤ
必然ナリト是故ニ本寮ニ於テハ英國製啤蘭地商賣中ノ重ナル
者ニ就テ實セシニ抑々葡萄ヲ以テ製スル酒精ハ之ヲ儲藏スル

= 隨ヒ其滋味ヲ増多スルヤ固ヨリ疑フ可ラズト雖ヒ我英國ニ
 於テ之ニ摹擬スル混和酒精ノ場合ニ於テハ然ラス貯蔵ノ久シ
 キニ至ルモ取テ其滋味ヲ増多スルナク且此酒精ハ純萃ノ酒精
 ヲ以テ基礎トスレハ業既ニ保守倉庫内ニ於テ之ヲ成熟セシム
 ルノ利益ヲ享有スルナリ故ニ今新夕ニ新法ヲ制定シテ彼等ノ
 請願ニ應スルモ為メニ利益スル所ハ非サルヘシト云ヘリ果シ
 テ然ラハ本寮ノ不便ト隨テ生スル所ノ經費トテ稅ヲ其請願ニ
 應ス可ラサルヤ固ヨリ辨テ俟タスト雖ヒ今ヤ其商業ノ漸ク將
 = 盛大ニ赴ントスルノ期ニ際シテ之ヲ久可セハ幾分カ其功績
 ナキニ非サルナリ故ニ本寮ニ於テハ務メテ其舉ヲ贊成シタリキ
 千八百六十七八年ノ議院ノ會同ニ於テハ蒸餾器ノ製作法内國ノ
 摩消ニ供スル為メ倉庫内ニ於テ酒精ヲ壘ニ装入シ或ハ蒸餾用
 = 供スル砂糖ニ稅額ヲ收免スル等ノ規則ヲ改正シテ頗ル蒸餾

者ノ便益ヲ計リタレモ時ニ記載スヘキノ事情ナキヲ以テ茲ニ
 之ヲ略ス

從來施行スル所ノ蒸餾室ニ於テ酒精稅ヲ賦課スルノ法ハ猶依
 然トシテ満足ノ狀ヲ呈シ稅法ノ檢束ヲ愁訴スル者モ亦甚ク稀
 ナリ故ニ千八百六十八九年ノ交ニ於テハ稅法ヲ犯ス者ヲ查出
 シ或ハ之ヲ犯セシトテ疑察スル無キニ至レリ
 今ヤ酒精ノ稅率ハ殆ント最項ノ點ニ達シ之ヲ過クレハ却テ政
 府ノ歲入ニ損言ヲ生スヘキノ域ニ至リタレハ茲ニ其沿革ヲ列
 叙スルハ敢テ裨益ナキニ非サルヘシ因テ千八百二十五年以降
 ノ稅率ヲ掲クルト左ノ如シ

	英倫	蘇格蘭	爱尔兰
千八百二十五年	七司令	二司令十邊尼	全
千八百三十年	七司令六邊尼	三司令四邊尼	全

裁
 省

千八百三十五年	七司令六邊尼	三司令四邊尼	二司令四邊尼
千八百四十年	七司令十邊尼	三司令八邊尼	二司令八邊尼
千八百四十二年	七司令十邊尼	三司令八邊尼	全
千八百四十三年	七司令十邊尼	三司令八邊尼	二司令八邊尼
千八百五十三年	七司令十邊尼	四司令八邊尼	三司令四邊尼
千八百五十四年	七司令十邊尼	六司令	四司令
千八百五十五年	八司令	全	六司令二邊尼
千八百五十八年	八司令	全	全
千八百六十年	八司令一邊尼	全	全
千八百六十年	十司令	全	全

千八百二十五年以降酒精稅ノ増加スルヤ既ニ此ノ如シ今ヤ一歩ヲ進メテ其稅ノ増加スルニ隨ヒ酒精ノ靡消ト人民ノ習俗ニ如何ナル影響ヲ現シ來ルヤヲ概記スルハ決シテ無益ノ業ニ非

サレテ信ス況ンヤ蘇愛兩國ニ於テハ其稅ノ増加スルヲ殊ニ著ケレハ其感觸スル所モ亦自カラ英倫ノ比ニ非サルニ於テオヤ千八百五十五年ニ於テハ英倫ノ酒精稅一瓦倫ニ付キ二邊ニ増加シタレハ其增額ノ極メテ僅少ナル故ヲ以テ之カ靡消ヲ減スルニ至ラズ亦來倍稅ノ著ルキハ千八百六十年第七月ニ於テ一瓦倫ニ付キ八司令一邊ニ増加シテ今日ノ率ニ至ラシメタルヲ以テ最トス蓋シ此倍稅ノ為メニ影響スル酒精靡消ノ狀タルヤ既ニ合衆王國ノ全列ニ徵シ既ニ英蘇愛ノ三國ニ比例シテ說明シタレハ今茲ニ之ヲ發セス

此年以來二年間ハ英倫ニ於テ酒精ノ靡消高大ニ減却シ千八百六十二年第三月三十一日ニ終ル一週會計年度ニ於テハ僅ニ千零七十二萬八千四百十二瓦倫ノ靡消高ナリシカ其翌年ニ至テハ更ニ減シテ千零四十八萬一千五百七十七瓦倫トナレリ是當

時棉花ノ凶歉ナリ専ラ製作ニ從事スル地方ニ於テ酒精ノ廢
消ヲ減スルノ致ス所ナリ千八百六十二年第四月乃至十二月ノ
九箇月間ニ於テ曼識特波兒頓ノ酒精零賣者ヲ購入シタル高ヲ
以テ前年ノ同時期ニ比較スルニ其量ハ即チ左ノ如ク減却スル
ヲ見ル

曼識特列

千八百六十一年

四八六、二五七瓦倫

千八百六十二年

四〇九、五二二瓦倫

即チ七六、七三五瓦倫ノ減差ニシテ之ヲ每百ニ比例スル一五分
七八ニ當ル

波兒頓列

千八百六十一年

一九六、二一三瓦倫

千八百六十二年

一三九、七七八瓦倫

即チ六、四三^五瓦倫ノ減差ニシテ之ヲ每百ニ比例スレハ二八分七
八ニ當ル

是ニ依テ之ヲ觀ルニ千八百六十一年間酒精廢消ノ減差ハ其翌
年ノ甚シキニ至ラスト雖モ亦以テ減差ノ著ルキヲ知ルニ足ル
ヘシ況ンヤ數年前ノ廢消高ニ就テ之ヲ比較セハ更ニ其差異ノ
甚シキヲ見ルニ於テオヤ

次ノ四年間ハ酒精ノ廢消漸次ニ增多シ千八百六十六年第三月
三十一日ニ終ル年度間英倫ノ廢消高ハ千五百五十九萬千三百六
十五瓦倫ナリシカ故ニ之ヲ千八百六十三年第三月三十一日ニ
終ル年度間ノ千零四十八萬千五百七十七瓦倫ニ比スレハ百萬
瓦倫餘ヲ増加シタリシカ幾モナク其廢消少シク減却シ現ニ千
八百六十九年第三月三十一日ニ終ル年度間ニ至テハ千二百二十
三萬九千三百十六瓦倫ヲ廢消スルニ及下リ是幾分外國ノ製

産ニ係ル純萃酒精ノ輸入ヲ增多スルニ依ルハシ
蘇格蘭ニ於テ酒精稅率ヲ増加シタルハ實ニ千八百五十三年ニ
始ル蓋シ千八百五十三年第三月三十一日ニ終ル年度間ニ於テ
ハ其率一瓦倫ニ付キ三司令八邊尼ニシテ七百十七萬二千零十
五瓦倫ノ酒精ヲ廢消シ千八百五十六年第三月三十一日ニ終ル
年度間ニハ其率八司令ニシテ七百十七萬五千九百三十九瓦倫
ヲ廢消シタルカ故ニ此兩年ノ廢消額ニ至テハ著ルキ増減ナシ
ト雖モ其中間ノ年度ニ於テ漸次其率ヲ増加シテ四司令八邊尼
〔千八百五十三年〕五司令八邊尼〔千八百五十四年〕七司令十邊尼八
司令〔千八百五十五年〕トナルニ至テハ其廢消ノ額モ亦大ニ減却
シ現ニ千八百五十七年ニ終ル年度間ニ於テハ僅ニ五百三十六
萬八千零五十二瓦倫ヲ廢消スルニ及ヘリ將タ次ノ二年間ハ若
ルク廢消ノ増減ナカリシカ千八百六十年第三月三十一日ニ終

ル年度ニ至テ遽ニ五百五十八萬千七百七十三瓦倫ニマテ増加シ
タルハ恰モ英倫ニ於ルカ如ク預メ倍稅ノ舉アラニテ慮リ千
八百六十年第二月間ニ保守倉庫ヨリ搬出セル者甚タ多キニ居
ルカ故ニ酒精稅ノ收入額モ亦隨テ倍稅ノ令ヲ發スルノ前後ニ
於テ著ルキ増減アルヲ致セリ
千八百六十年及ヒ六十一年ノ交ニ於テ酒精廢消高ノ減却スル
ヤ殊ニ甚シク其減差ハ百三十萬瓦倫餘ニ至レリト雖モ其實因
ヲ探レハ前年ノ及動タルニ過キサルカ故ニ其翌年ヨリ漸次ニ
之カ廢消ヲ増加シ千八百六十六年ノ交ニ至リテハ五百四十
五萬二千二百六十一瓦倫ノ多キニ至レリ然ルニ千八百六十七
八年ノ交ニハ内國製酒精ノ廢消高遽ニ減却セシカ是當時穀物
ノ價直ノ騰貴スルヤ酒精ノ價直モ亦隨テ增多セシヲ以テ精餚
者及ヒ商賈等ハ盛ニニ甘味ヲ加ヘサル外國ノ酒精ヲ輸入シ或

ハ外國及ヒ屬地ノ製造ニ係ル下品ノ糖水酒ヲ輸入シテ之ヲ精
餾セシニ由ルナリ蓋シ千八百六十八九年ノ交ニ至テハ其廢消
高稍舊ニ復シ實ニ五百零二萬六千五百五十一瓦倫ニ至レリト
雖モ猶未夕千八百六十七(六)年ノ多キカ如クナラス而シテ當時
ニ於テ其廢消ノ減却セシハ蓋シ前年ト其實因ヲ同スル者ナリ
千八百五十二年愛爾蘭ニ於ケル酒精ノ稅率ハ一瓦倫ニ付キニ
司令八邊尼ニシテ八百二十萬八千二百五十六瓦倫ヲ廢消シ千
八百五十三年ニ於テハ其率ヲ加ル丁八邊尼ニシテ八百十三萬
六千三百六十二瓦倫ヲ廢消シ又千八百五十四年ハ四司令ノ
稅率ニシテ其廢消高ハ八百四十四萬零七百三十四瓦倫ナリキ
然ルニ其翌年ニ至リ其率ヲ増加シテ六司令乃至六司令ニ邊尼
ト為ヌニ及テヤ其廢消高ハ六百二十二萬八千八百五十六瓦倫
ニマテ減却セシカ千八百五十六年ニ至テハ漸ク之ニ五十萬瓦

倫ヲ加ヘ千八百五十七八年ノ交ニハ則チ八百七十八萬三千二
百零七瓦倫ナリシカ故ニ其廢消高ハ前後ニ於テ著ルキ増減ヲ
為サリシナリ
千八百五十八年ニ於テハ愛爾蘭ノ酒精稅ヲ増加シテ一瓦倫ニ
付キ八司令ト為シタルカ故ニ千八百五十八九年ノ廢消高ハ五
百四十一萬八千四百零九瓦倫ニ迄減却シタレモ其翌年ニ至テ
ハ頗ル増加シテ五百九十五萬零二百四十一瓦倫ニ及ヘリ然リ
ト雖モ此廢消ノ増加ハ英蘇ノ兩國ニ於ケルカ如ク千八百六十
年第二月十七日ノ會計豫算表ノ頒布ニ先チ保守倉庫ヨリ搬出
スル者ノ夥多ナルニ依ルカ故ニ千八百六十年及ヒ六十年ノ
交ニハ再ヒ減シテ四百十九萬千五百六十六瓦倫ニ至レリ蓋シ愛
爾蘭ノ酒精稅ニ於ケル其率隨テ増加スレハ其廢消隨テ減却シ
ル當時ノ酒精稅ハ之ヲ十年前ニ比ス終ニ千八百六十二年ノ交ニ

續
續

於テ其率ヲ増加シテ十司令ニ至ラシメタル頃ニハ其廢消高ハ
僅ニ三百八十九萬千七百五十九瓦倫ニ及ヘリ然ルニ此年以來
ハ其廢消額漸ク増加シ千八百六十六七年ニハ五百八十九萬千
七百五十九瓦倫ニ至リシカ其後稍々減却シテ千八百六十七八
年ニ於テハ四百六十七萬六千七百零四瓦倫トナリ千八百六十
八九年ニハ四百八十四萬二千零五十五瓦倫トナリシハ蓋シ前
ニ説明スルカ如ク穀物ノ價直ノ騰貴スルニ依ラヌンハ非サル
ナリ
英蘇愛ノ三國ニ於ケル酒精稅率ノ増加ニ依テ其廢消ニ影響ス
ル所ノ狀タル既ニ此ノ如ク今ヤ一步ヲ進メ此等ノ變改ニ依テ
合衆王國全州ニ影響スルノ狀ト倍稅ニ非サル他ノ原因ニ依テ
酒精ノ廢消ニ感觸セル事蹟トヲ略說セサル可ラス
千八百六十年佛蘭西トノ條約ニ由テ外國製ノ酒精及ヒ葡萄酒

ノ輸入稅ヲ減免スルヤ内國酒精ノ廢消ハ為メニ大ニ減却シタ
リ蓋シ千八百五十二年以降ニ在テ良シヤ麥酒稅(即チ麥芽稅)ノ
率ハ敢テ増減スル無キモ既ニ英倫ニ於テハ殆ント酒精稅ノ二
割七分ヲ増加シ蘇格蘭ニ於テハ十七割二分愛爾蘭ニ於テハ二
十七割五分ヲ増加シタレハ内國ノ酒精ニ代ルニ外國ノ酒精葡
萄酒及ヒ麥酒ヲ以ラスルヤ固ヨリ怪ムニ足ラサルナリ況ンヤ
此際茶葉ノ輸入稅每封度ニ司令ニ邊尼四分一ヲ減シテ六邊尼
タラシムルニ於テオヤ今夫之ヲ人口ニ比例スルニ内國酒精ノ
廢消額ハ大約每頭三割二分ヲ減却スルニ拘ラス外國及ヒ植民
地ヨリ輸入スル酒精ノ廢消額ハ五割六分ヲ增多セルカ故ニ此
兩種ノ酒精ヲ併セ算スレハ其廢消ノ減差ハ即チ一割二分五厘
ト成ル又此時ニ於テ外國葡萄酒ノ廢消ハ十一割六分ヲ増加シ
麥酒ハ三割二分茶葉ハ七割七分トコトコト
飲料ニ供スル者ハ五

咖啡ノ屬ニシテハ五
飲料ニ供スル者ハ五

消 額		茶	
酒種	外 國	茶	茶
精 算	葡 萄 酒	外 國 麥	茶
倫 布	倫 布	每 頭 千 若 度	每 頭 千 若 度
九 九	六 三 四 六 六	一 六 七 三 二 四 五 六 八	五 四 七 三 〇 四 一 六
九 九	一 五 一 五 一 六 八 四 六	二 四 五 四 二 六 四 八 〇	一 〇 六 八 二 五 一 六 五 三
三 〇	三 〇	三 三 二 八 五 七 二 二	三 三 二 八 五 七 二 二

ハ即チ左表ノ如シ

十税杯シ
ニ=ノト
倍比稅定
ヲスハム
増レ則ル
スハチ
ノ五一ハ
割六邊
合倍尼邊
ナヲ半尼
リ増トノ
シス四熱
茶果分湯
稅一ニ
ニ稅按
比然=ス
スラ當
レハハク
ハ杜へ一
茲松ク
=酒而
其稅レ
詳細之
ヲ松
揭麥酒
ケ酒一

又テ六其
分一ニ
=巴四
當因合
ルノ零
ヲ移八
四ハ三
分乃一
シチニ
ヲ半四
熱邊=
湯尼當
二ニ今
按當付
スルレハ
ハク又
一茶令
因ノ九
邊ブ尼
飲ヲ料
ニハテ社
ヲ松ヲ
麥酒得
一ハ七

斗ハ九其
升何四
レ合ヲ
零購八
入三
一ハ
ニシ
四ト
七セ
當ン
二今
付ヤ
キ麥
五酒
司稅
令ハ
九一
邊ブ
尼ツ
十セ
ルレ
ヲ我
以一

因點稅
三從合
フ一ヲ
夕以
四テ
六適
ニセ
五リ
ニト
當ス
七依
ト令
茶ハ
ノ茲
一巴
平
準
+此
リ等
トノ
認比
可例
スヲ
ル知
ノル

ノシ法
ハ云ハ
唯ハ
靡リ
消然
者リ
カト
其雖
分氏
量某
=等
訖ノ
之ハ
考彼
此=相
據平
比表
較酒
ノノ
増中
減=判
ヲ含
定蓋
ムス
ハル

割五
分ヲ
増加
セリ
此數
品ノ
賦課
課ス
ル所
チノ
稅率
未嘗
ヲ發
許然
ノ比
例分

年度	人口	靡			
		英國		外國及植民地	
		酒精	每頭若干瓦倫	酒精	每頭若干瓦倫
千八百五十二年 十二月廿一日 ヲ以テ終ル	二七五〇〇〇〇	二五〇〇八九六	四八五〇三二	二七六	
千八百六十五年 三月三十一日 ヲ以テ終ル	三〇四〇三〇〇	二二〇七九三九	八三六六七三	二七五	

是ニ依テ之ヲ觀ルニ酒精稅ノ靡消ハ其額ヲ減却スルニ拘ハラ
 ス其收稅額ニ至テハ却テ若干ヲ增加セリ
 五千零七十五萬七千九百六十八磅ノ六十九年及於テ而シテ英國
 人民カ激烈ナル酒精ニ代ルニ溫和ノ飲料ヲ以テシ終ニ其嗜好
 ヲ一變スルニ至リシハ蓋シ此時ヲ以テ始メトス
 愛爾蘭ノ人民カ麥酒ヲ靡消スルヤ一日ハ一月ヨリ多シ而レテ
 其靡消ノ總額ニ就テハ精細ノ統計ヲ得可ラスト雖氏千八百六
 十四年ノ報告書中ニ記スル所ハ稍々其實額ヲ示ス者ニ似タリ
 依テ之ヲ左ニ掲ク

英國		人口一人ニ付麥酒靡消ノ割合	
千八百五十二年	一ガールルノ廿分ノ十七	千八百五十四年	一ガールルノ廿分ノ十九

即チ一割一分七厘ノ増加ニ

當ル

蘇格蘭

千八百五十二年
千八百五十四年

一ハレレ此ノ五分ノ一
一ハレレ此ノ廿五分ノ八

即チ六割ノ増加ニ當ル

愛爾蘭

千八百五十二年
千八百五十四年

一ハレレ此ノ百分ノ九
一ハレレ此ノ五分ノ一

即チ十二割二分ノ増加ニ當ル

而シテ其廢消ヲ增多スルノ度タルヤ甚ク迅速ナラサルモ今日ニ至ルマテ猶若干ヲ増進スル無キニ非ス

酒精ノ輸出

千八百四十八年ノ決議ニ依テ酒精ノ檢束法ヲ廢止スルヤ第
葉ヲ見ヨ精餾酒精及ヒ調和酒精ノ外國及ヒ植民地ニ輸出スル
者甚ク多キヲ加ヘ殊ニ純萃酒精ノ輸出ノ如キハ從來極メテ僅
少ナリシモ此時以來大ニ其額ヲ增多セリ蓋シ酒精ノ輸出タル
歳ニ盛衰増減ノ差ナキニ非スト雖凡既ニ此法令ノ公布後三年
間ニ在テ一歳ノ平均額ハ二十八萬三千六百零八瓦倫ナリシニ
千八百六十九年第三月三十一日ニ終ル年度前ノ三年間ニ及テ
其平均額百三十一萬七千二百九十五瓦倫ニ至ルハ蓋シ漸次ニ
其輸出ノ增多スルヲ徴スルニ足レリ

夫斯ノ如ク酒精ノ輸出ハ漸ク逐テ增多スルニ拘ハラズ實ニ千
八百六十八年ニ於テ二十萬瓦倫ヲ葛牙ニ輸スノ外ハ曾テ葡
萄酒ヲ製産スル諸國ニ輸出スルノ居多ナルニ至ラス憶フニ千

八百五十五六年前ニ在テ佛國ニ輸出スル酒精タルヤ其額甚ク
僅々タリシカ此時ニ至リ遽ニ三百四十萬零六百九十一瓦倫ニ
及ヒシハ蓋シ同國ニ於テ葡萄酒ノ栽培凶歉ニ因ル者ニシテ之ヨ
リ先キ其輸出ノ僅ニ八十二萬七千九百十二瓦倫ニ過キサル者
ニ對比シ来レハ當時ノ輸出額ハ頗ル巨大ナリト云ハサル可ラ
ス千八百五十六七年ノ交ニ至リ佛國ニ於テハ復ク葡萄酒ノ凶歉
ニ遭遇セシカ故ニ英國ノ酒精ヲ輸出スルト五百七十一萬七千
五百二十九瓦倫ノ多キニ及ヘリ是ヲ佛國ニ輸出スル酒精ノ最
モ巨額ナル者トス

千八百五十七年第八月佛國政府ニ於テ其人民カ穀物ヲ以テ酒
精ヲ蒸餾スルト久可シ及ヒ外國酒精ニ輸入稅ヲ課スルニ及
テヤ英國酒精ノ輸出額ハ大ニ減却シ千八百五十七八年ノ交ニ
ハ三百五十二萬四千八百六十五瓦倫ニ至リ其後三年間ニ在テ

ハ僅ニ二百萬瓦倫ノ平均ニ至レリト雖モ千八百六十一二年ニ
於テハ佛蘭西葡萄酒ニ輸出スル者極メテ多延テ其翌年ニ及ヒ
殊ニ此年ニ至テハ米合衆國ノ内亂ニ遭遇シ從來同國ヨリ輸出
スル酒精ノ供給ヲ廢絶スルニ依リ英國ノ酒精ヲ土耳其及ヒ亞
弗利加西岸ノ諸國ニ輸ス者夥多ナルニ至レリ千八百六十四年
ニ於テモ亦均シク之ヲ輸出スル甚ク多カリシカ此三年間ノ平
均ハ實ニ四百萬瓦倫ニ超乗スルニ及ヘリ然ルニ千八百六十四
五年ニ至テハ其狀遂ニ變換シテ衰微ノ兆ヲ現シ其翌年ニ及テ
ハ衰態殊ニ甚クシク其輸出額ハ僅ニ百六十五萬九千九百八十
六瓦倫ニ過キサリシカ此年以降ハ盛衰増減ノ差ナキニ非サル
モ未夕前日ノ甚シキニ至ラズ憶ニ合衆國ノ内亂ニ原因スルヲ
除クノ外葡萄酒産出ノ地ニ輸出スル酒精ノ額ノ増減スル所以ノ
者ハ該地ニ於テ葡萄酒ノ豊凶ヲ致スヤ葡萄酒及ヒ啤釐地ノ滋味

ヲ強メシカニ為シニ酒精ヲ要スルノ多寡ナキト能ハサレハナリ
今ヲ距ル丁四年間ニ在テ酒精輸出ノ衰微スルヤ内地ノ蒸餾者
等ハ以謂ク抑々宇魯士國ノ酒精ハ馬鈴薯及ヒ根類ヲ蘆萄等ヲ以
テ製造スルガ故ニ其價直極メテ低廉ナリ而シテ其實ヲ論スレ
ハ英國ノ製品ニ數等ヲ讓ルト雖モ他ノ外國ニ於テハ或ハ之ヲ
將テ葡萄酒ノ滋味ヲ強メ或ハ之ニ他ノ酒精若クハ里克兒ヲ混
合シテ臭氣ヲ去リ以テ之ヲ販賣スル者尠ナシトセス是則チ英
國酒精ノ輸出ノ減却スル原因ニ非スレテ何リヤト夫斯ノ如ク
歐羅巴洲ニ於テ外國酒精ノ競争スルヤ幾分カ稅酒精ノ輸出ニ
影響ヲ與フル無キニ非スト雖モ既ニ千八百六十六七年ノ交ニ
於テ葡萄酒ニ輸出スル者四萬八千七百六十二瓦倫ニ減スルモ
其翌年即チ千八百六十七年ニ至テハ二十二萬九千九百十九瓦倫ノ多キニ
及ヒ千八百六十九年ニ至テハ再ヒ三萬八千三百十九瓦倫ニ減

スルヲ見ハ彼ノ所謂外國酒精ノ競賣ハ千八百六十五年ノ交
ニ始レリトノ說ハ信依スルニ足ラサルヘシ
千八百六十九年第三月三十一日ニ終ル年度間ニ於ケル酒精ノ
輸出總額ハ百三十六萬零四百四十瓦倫ニシテ其歐羅巴洲ニ輸出
スル者ハ僅ニ十萬瓦倫ニ過キサルカ故ニ歐羅巴洲内葡萄酒ヲ產
出スル諸國ニ向テ輸出スル殆ント其跡ヲ絶セリト云フモ不可
ナル無キニ似タリ然リト雖モ其他ノ諸國ニ向テ輸出スルモノ
ハ日々ニ多キヲ加フルト猶オ本編ノ始メニ記スル所ノ如シ
石腦油混和酒精藝術及ヒ製造等ニ使
用スル者ハ無稅トス
英國ニ於テ酒精稅ヲ課スルヤ其價直隨テ騰貴シ帝ニ學術ノ進
歩ヲ妨クルノミナラス兼テ製造者ヲシテ酒精ノ質ヲ濫惡ナラ
シムルノ弊害ヲ醸シ為メニ大ニ貿易ノ道ヲ壅塞スル比々皆然
リトス况ンヤ歐洲諸國ニ於テ輕稅ヲ課スルノ酒精ト市場ノ競

争ヲ將來ニ維持ス可ラサルノ歎アラシムルニ於テオヤ固想ス
ルニ千八百五十五年或者ク鯨油ニ代用スヘキラブリカント
生セラシムル者ト稱スル者ノ專賣免許ヲ得ルヤ其製造ニ使用ス
ル酒精ノ税ヲ放免スルカ但ハ其税ヲ減免セラレシトテ請求セ
シカ故ニ直ニ試験ヲ遂ケシニ其製造ニ使用スル酒精ハ常ニ飲
料ニ適セサルノミナラス一旦之ヲ混和スルノ後ハ何等ノ作用
ヲ經ルモ癩萃ノ酒精ニ復ス可ラサルトテ查出セリ是ヲ以テ本
憲ニ於テハ速ニ其請願ヲ允可セラレシトテ開陳シタリキ然ル
ニ當時大蔵書記官タルウヰルソシ氏ハ飲料ニ供スヘキ酒精ノ製
造ニ使用スル者ヲシテ悉ク無税タラシムルモ取テ政府ノ歳入
ニ損害ヲ與フル無キヤ否ヲ問陳スルヲ以テ緊要トセシカ故ニ
本憲ノ精鍊室ニ於テハ即チ化學士ノ試験ヲ為セシニ化學家ヒ
リッブ氏ハ葡萄酒ヨリ蒸餾スル酒精ニ石腦油ヲ混和セル者ノミ

其税ヲ放免スルキハ決シテ政府ノ歳入ヲ損害スルノ患ナキト
ヲ查出シ尋テ博士グラハムホフマンレドワードノ三氏ハ癩萃
ノ石腦油一割ヲ混和シテ足ルヘシト開陳セリ是ヲ以テ千八百
五十五年ノ決議ニ於テ此ノ如ク混和シタル酒精ハ無税ニテ製
造用ニ供スルヲ得ヘキトテ令シタリ蓋シ此混和酒精タルヤ原
來無味ニシテ酒徒ノ飲料ニ供スルニ足ラスト雖其質ノ健康
ニ害アルヲ顧ミス其價直ノ廉ナル故ヲ以テ漫ニ之ヲ飲ム者ナ
キヲ保ス可ラス故ニ此等ノ弊害ヲ預防センカ為メニ凡ソ石腦
油混和酒精ヲ使用セント欲スル者ハ先ツ本憲ニ願書ヲ呈シ兼
テ其酒精ヲ製造スルノ外ハ決シテ他ノ用ニ供セサルトテ保ス
ル誓書ヲ作ラシメ而シテ後其需求スルニ從ヒ一時ニ十瓦倫ヨ
リ少テ廿五瓦倫ヲ領受スルトテ得ヘキノ規則ヲ設ケ尋テ其領受
スヘキ量ヲ五瓦倫ニ迄減シタリ

仰々當時ニ於テ此混和酒精ヲ使用スルノ目的ハ漆、假漆等ニ和
シテ家具ノ光澤ヲ生シ帽子ノ製造ニ於テハ之ヲ和シテ護謨、松
脂ヲ溶解シハイパルスプルハ油、哥羅方水、硫黃精、硝石精、格魯精、
甘硝石精等ノ製造ニ供シ或ハ火藥爆發ノ資ト爲シ若クハ透明
ナル石鹼ヲ製シ或ハ幾尼涅、謨爾非亞等ノ如キ植物ヨリ滷汁鹽
質ヲ榨取スルニ供シ或ハ石鹼軟膏及ヒ獸醫藥越吉斯ヲ製シ或
ハ金銀箔、航海羅盤等ノ製造ニ供シ其他天然物ノ保藏若クハ化
學解剖學ノ試驗等ニ限リ未タ之ヲ將テ熱ヲ取り或ハ點火用ニ
供セシマルノ域ニ至ラスト雖モ其所謂佛蘭西磨器者ナル者ニ
ハ此混和酒精ノ物品ノ光澤ヲ生セシマルニ必要ナルヲ以テ若
干ノ樹脂護謨、松脂等ヲ酒精ニ加ヘテ溶解スル片ハ其少量ヲ販
賣スルヲ得セシメタリ是ニ於テカ其結果ハ直接ニ於テ學術
ノ進歩ヲ促シ製造工作ノ業ヲ勵獎スルノミナラス兼テ從來護

謨ノ溶解若クハ亞的兒硝石精ノ製造者ニ販賣センカ爲ノニ密
ニ酒精ヲ製造スルノ弊風ヲ洗除スルヲ得タリ
今ヤ本黨ニ於テハ數年ノ實驗ヲ經テ一タヒ石腦油ヲ混和シタ
ル酒精ハ復タ飲料ニ供ス可ラサル事ト曩ニ此混和酒精ノ販賣
ヲ允可スルニ當リ爲メニ設定シタル檢束法ヲ廢止スルモ取テ
政府ノ歲入ヲ損害スルニ至ラサル事トヲ確認シタレハ茲ニ千
八百六十一年ヲ以テ凡何人ヲ問ハス國產稅ヲ賦課スル者ニ非サルモ
政府ノ免許ヲ得テ一時ニ一瓦倫ニ超ヘサル混合酒精ヲ零賣ス
ルヲ得ヘシトノ法令ヲ發シ兼テ從來此混和酒精ノ使用ヲ若干
ノ藝術及ヒ製造ニ限ル所ノ法令ヲ廢止シタリ是ニ於テカ其使
用ノ方法ハ日一日ヨリ增多シ現ニ今日ニ在テハ洋燈ヲ點シ食
品ヲ烘燒スル等共家資ニ供スル者ハ概テ混和酒精ニ非サル無
キニ至レリ蓋シ混和酒精販賣免許稅ハ始メニ磅二司令ナリシ

カ其後改正シテ十司令ニ追減却シタリキ
千八百六十一年頃ヨリ光澤アル新染料ノ行ハル、ヤ石腦油混
和酒精ヲ以テ之ヲ製スル、甚タ多シ是ヨリ先キ佛國ニ於テハ
染料ヲ製スルニアルコトヲ用ヒシカ我國從來酒精稅ノ過重
ナル自ラ佛人ヲシテ之ヲ使用スルノ便ヲ缺シメタルノミナラ
ス尚其製品ニ於テモ亦彼ニ一步ヲ讓リタリキ
千八百六十三年合衆國ノ内亂ニ際シテ松精油ノ價直ノ騰貴ス
ルヤ將ニ糖水酒ヲ代用シテ繪具ヲ製セントスルノ企アリ抑々
糖水酒ハ西印度ノ産品ニシテ其粗惡ナル者ハ飲料ニ供スルニ
足ラス然ルニ此際偶々本索ニ建議スル者アリテ今若シ之ニ石
腦油ヲ混和スルコトヲ准サハ大ニ西印度ノ輸出ヲ奨勵シ以テ其
植民人ニ益スル所ハ尠少ニ非サルヘシト云ヘリ是ヲ以テ議院
ノ裁可ヲ經テ倉庫内ニテ糖水酒ニ石腦油ヲ混和スルコトヲ允可

シ又同時ノ法令ヲ以テ石腦油混和酒精ノ輸出ヲ允可シタリ
日耳曼ノ化學者某氏ハ石腦油混和酒精ニ香味アル混和物ヲ加
ヘテ殆ント其質ヲ純萃ニシ以テ飲料ニ適セシムルノ作用法ヲ
發明シタリ然ルニ斯ノ如キ作用法ヲ經タル酒精ハ素ト發酵シ
テ成ル者ニ非サレハ現時ノ成法ニ據テ收稅スルヲ得ルヤ否ヤ
ノ疑難アルヲ免レス依テ千八百六十五年新タニ一般ノ酒精稅
法ニ從テ其稅ヲ課スヘキノ法令ヲ發シタリ是他ナシ其原質ハ
何物ニ依テ成ルニ論ナク既ニ酒精タル以上ハ他ノ酒精ニ均シ
ク其稅ヲ課セサル可ラサレハナリ
千八百六十六年前ニ在テ石腦油混和酒精ノ摩消ハ年ヲ逐フテ
增多シ現ニ千八百五十六七年ノ交ニ於テハ二十一萬八千零
三瓦倫ナリシカ千八百六十五年ニ至テハ百零七萬零八百九
十七瓦倫ノ多クニ及ヘリ然ルニ陽ニ此混和酒精ヲ藥品ノ調合

ニ供用スルノ口實ヲ以テ陰ニ飲料トシテ販賣スル者往々之有
リシカ千八百六十六年ニ及テハ其氣焰益々増長シ終ニ之ヲ禁
過セサル可ヲサルノ勢ニ至レリ加之此混和酒精ヲ以テ服用藥
品ヲ調合スルハ極メテ製藥家ノ忌ム所ナリト雖モ成法ニ明文
ナキノ故ヲ以テ漸ク丁幾劑及ヒ其他ノ服用藥品ニ混和スルノ
弊害ヲ醸成セリ是ニ於テ哥羅方水及ヒ硝石精ノ如キ藝術製造
等ニ供シ又藥品ノ場合ニ於テハ一旦之ヲ混和シテ容解セシメ
而シテ其痕跡ヲ留メサル者ニ供スルノ外ハ一切之ヲ使用スル
ヲ禁止シタリ

又同時ニ「^{上塗}」ト稱スル混和物ニ松脂及ヒ着色料ヲ加フ
ルノ外ハ他物ヲ和合シテ其質ヲ變更セシム可ラストノ制限法
ヲ設タリシカ蓋シ此法ノ本旨タレバ原來彼ノ混和物ハ何人ヲ
問ハス多量ニ之ヲ求メ得ヘキヲ以テ或ハ其使用ノ目的ヲ變シ

テ家具ヲ塗抹スルニ至ラサラン^ト豫防スルニ外ナラス憶ニ
此「^{上塗}」ニ護謨松脂ヲ和合スルハ政府ノ輸入ニ損害ナキヲ保
スルニ足ルト雖モ或ハ蒸物ヲ加ヘテ臭氣ヲ去リ或ハ酸類ト共
ニ蒸餾シテ其質ヲ變シ以テ飲料ニ供スルノ却テ本來ノ目的ノ
為メニ使用スルヨリ多キニ至ル無キヲ保ス可ラス然ハ則チ前
ノ制限法ヲ設ケテ一方ニ於テハ其目的トスル藝術ニ供スルノ
外ハ之ヲ使用^セシメサルモ豈其理ナシトセンヤ

此制限法ヲ設ケルノ後ハ大ニ混和物ノ廢消ヲ減却シタリシ雖
モ蓋シ之ヲ以テ本來ノ目的ニ供用スルノ致ス所ナルヲ信
ス試ミ千八百六十六年第三月三十一日ニ終ル年度間ヲ算スル
ニ其廢消額ハ百零七萬零八百九十七瓦倫ナリシニ千八百六十
七年ニ至テハ百零三萬一千二百十四瓦倫ニ減シ千八百六十
八年ニ於テハ八十五萬四千八百四十四瓦倫千八百六十九年ニハ

歲
自

八十八萬五千九百五十七瓦倫造ニ減シタリシカ其千八百六十六年乃至千八百六十八年ノ間ニ於テ二十萬瓦倫ノ減差ヲ生スル所以ノ者ハ曾テ之ヲ以テ本來ノ目的ノ外ニ供用シ或ハ服用ノ藥品ニ和合セシカ為メナルヘシ然リト雖モ昨年十九年六ニ至テ其廢消ノ頗ル増加スルハ固ヨリ莫ノ目的ニ供用スルノ自ラ多キヲ加ヘタルニ依ルナリ

